

9/3
あけ

戦争法案廃案に全力

スト配置など運動交流 建交労が大会

全日本建設交通一般労働組合（建交労）は8月29日から31日の3日間、福島県郡山市内で第17回定期大会を開きました。昨年を上回る組合員を拡大して大会を迎え、戦争法案廃案に全力をあげることなどを議論しました。

あいさつした赤羽数幸委員長は「日本の針路をめぐり、労働者・国民と安倍政権との間で激しい攻防が展開されている。戦争法案を廃案にし、安倍内閣を退陣に追い込もう。憲法を守りいかし、大企業の社会的責任を追究して労働者・

国民の安全・安心・平和な生活を実現しよう」と呼びかけました。廣瀬肇書記長が運動方針を提起し、「憲法を守り・いかにたたかいに力を総結集し、強大な建交労の建設に向けて奮闘しよう」と提案しました。

討論では、戦争法案廃案、安倍政権退陣を求める運動の報告が相次ぎ、「30日間連続の街頭宣伝を行った」「ストライキを配置している」などの取り組みを交流しました。トンネルじん肺根絶闘争、被災者の立場に立った震災復興と原発

事故放射能汚染被害者救済の運動について特別発言がありました。

大会2日目には、「国会10万人・全国100万人大行動」に応じ、「戦争法案廃案！安倍政権退陣！をかちとる決議」を採択し、「戦争NO」「9条守れ」のプラカードをいっせいに掲げてコールしました。来賓として、全労連の井上久事務局長、日本共産党の辰日孝太郎参院議員らがあいさつしました。



大行動にあわせて戦争法案反対をアピールする建交労の組合員たち＝8月30日、福島県郡山市